

1. コミュニティ単位における活動

a. 研修



カレン（マニャッタ・マトペニ）コミュニティ単位（CU）に対する在宅ケア研修1



カレンCUに対する在宅ケア研修2

保健省のスタッフが講師となり、保健省のカリキュラムに従い、前期研修（座学中心）、後期研修（実際にコミュニティで一定期間実施した後に、実地中心の研修を行う）を3つの対象CUのコミュニティ保健ボランティアCHWに対し、4回にわたって実施した。



サウスランズCUに対する、総復習研修1



サウスランズCUに対する、総復習研修2

本事業は3年事業の最終年であるため、これまで研修したことの復習、および、今後、事業の支援なしで自主的に活動を行っていくために、住民の健康につながる収入向上活動（石鹼作り、生理用ナプキン作りなど）の研修を行った。写真は、安価な材料で石鹼を作り、住民は安価な石鹼を購入できると同時に、Community Based Organization (CBO)として登録されたCUが利益を上げることができるようになる研修。

b. 世帯調査とフィードバック会議



シティコットン・ウペンドCUにおける世帯調査

6ヵ月ごとに実施される世帯調査では、CHWが一軒一軒世帯をまわり、保健省の記録台帳にそってデータを収集する。写真は、世帯の漏れがないように、CHWが戸口にコードを書き込んでいる。



サウスランズCUにおける世帯調査

CHW・コミュニティ保健委員会（CHC）がコミュニティ内で活動を始める前には、コミュニティホールにおいて、指導員および県公衆衛生局担当官が細かく指導を行い、また、データ集積後にも、更に同じ場所で一人ひとりのデータをチェックする。

c. Exchange Visits



マガディCUへの訪問研修

本事業対象3箇所のCUのCHW・CHC数人ずつおよび、指導員、保健医療施設の医療従事者、県公衆衛生局など、計60名にて、カジアド郡、マガディにあるOldonyonyokie CUを訪問した。

コミュニティヘルス戦略の活動においては、CU内で問題にぶつかると、自分たちで解決策を見出していくことが困難であることが多い。特に、自助努力を怠りやすい都市のCUのメンバーは、自助努力を行うことによって発展する地方のCUを見ることによって、学ぶことが多い。

マガディでは、文化の確立された遊牧民族（マサイ族）に対して、工夫をこらしたIEC（情報・教育・コミュニケーション）教材を利用して行動変容を促す活動、若者主体の活動などを見学することにより、多くのことを学んだ。



d. 土嚢による路地・下水道修復活動



サウスランズにおける土嚢による路地・下水道修復活動

スラム内の路地は、人口密度が高いこと、不法地域であるため、インフラが整っておらず、上下水やゴミ収集などの公共サービスへのアクセスも悪いため、常にゴミなどにより下水管がつまり、更に水はけの悪い状況により、水衛生環境が劣悪である（写真上）。

このため、NPO道普請人との連携で、土嚢を使って路地を修復したり、下水管の構造を改善する研修および活動を行った（写真中）。

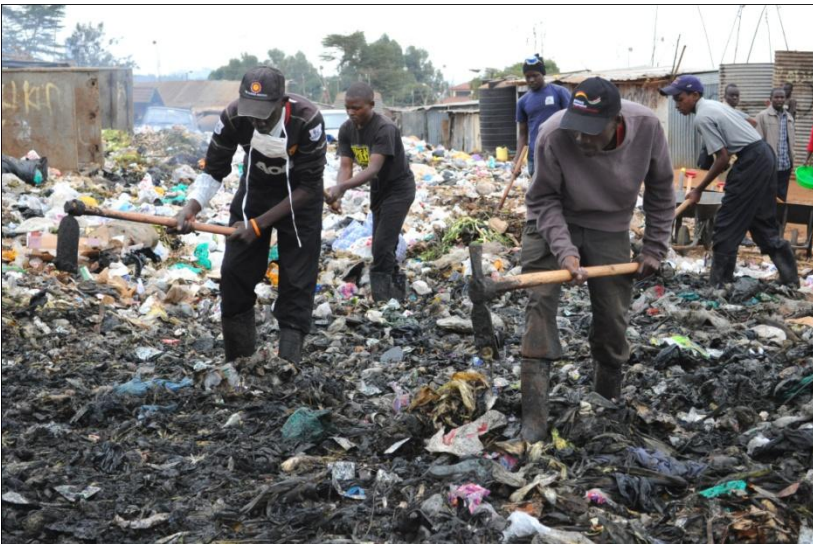


活動に参加したコミュニティメンバー、講師を務めたNPO道普請人、チャイルドドクターのメンバーでの集合写真（写真下）。





(活動前) ゴミ捨て場となってしまう路地の様子



(活動中) コミュニティ住民により、まず、ゴミの処理がされ、更に、土嚢や土砂により、修復をおこなった。



(活動後) 住民の手により、ゴミ捨て場化されていた路地が、見事に改善された。
この後、若者によるコミュニティグループや CHW・CHCがコミュニティ内ごみ処理のシステムを構築し、更に住民教育を実施し、ゴミのない状況を保つことができています。

e. アウトリーチ活動



マニャッタにおけるアウトリーチ

担当保健医療施設のスタッフがコミュニティにチームで赴き、住民の治療や検査、検診、保健教育などを行うことは、コミュニティ住民がコミュニティ内医療サービスを受けることのみならず、コミュニティと保健医療施設の関係を強化する。



マトペニにおけるアウトリーチ

保健医療従事者が、子供の上腕周りを測り、栄養状態をチェックする。

f. 定例活動



マニャッタにおけるダイアログデイ

コミュニティヘルス戦略において、住民がデータに基づいて、自分たちの問題を話し合い、それに対する対策を計画し、実行していくことは非常に重要である。ダイアログデイでは、データに基づき、話し合いが行われる。

2. インフラ支援や機材供与

a. 機材供与



機材供与と譲渡式

本事業において、保健医療施設に対して、そのサービス向上のために、基本的医療器材（体重計、血圧計など）や家具（椅子や机など）の供与を、県公衆衛生局に対して、アウトリーチ活動ができるように、基本的医療器材、家具、テントなどを供与した。

これらの機材は、地方行政官、県公衆衛生局、保健医療施設のスタッフ、コミュニティ住民などが見守る中、それぞれの担当者に譲渡した。また、下記サウスランズのリソースセンターの譲渡式も同時に行った。

写真上：ランガタ保健センター長に対して、体重計を譲渡

写真中：譲渡式の出席者と共に、記念撮影

写真下：県公衆衛生局に供与されたアウトリーチ用のテントを、マニャッタアウトリーチの際に設置している様子



b. 水タンク



ウペンドに供与された水タンク

第二期のサウスランズへの供与に引き続き、第三期においては、シティコットン・ウペンドに水タンクを供与し、住民の安全な水へのアクセス向上に貢献した。

c. サウスランズのリソースセンター



スラム内で集会を行うことができる場所を確保することは非常に難しく、多くの場合に、有料である。また、既に第二期で供与した機材（清掃道具や音響拡声装置など）や、IEC教材などを安全に保管できる場所も存在しない。このため、第三期においては、特に人口密度が高いサウスランズCUに対して、地方行政事務所の敷地内に、コンテナを改築してリソースセンターの供与を行った。



写真上：リソースセンター全景

写真下：リソースセンター内部。コミュニティリーダーたちと。

d. 県コミュニティヘルス事務所



これまで、県コミュニティヘルス担当官は、事務所を持っておらず、フィールドにて必要な面談を行っていた。また、事務所がないために、必要なコンピュータデータの管理が難しく、個人のノート型パソコンにて行っていた。このため、コミュニティヘルス担当官がデータの管理も含めた仕事を行うことができ、なおかつ、コミュニティ住民も含めた関係者との会議なども行うことができる事務所の設置を支援した。

写真上：現在の県公衆衛生局の会議室として作られたコンテナの上に、更にコンテナを重ねることで、事務所を二階に設置した。

写真中：事務所内、会議のできるスペース
写真下：コミュニティヘルス担当官の机とコンピュータ